

共謀罪と大学

写真は名古屋大「北部生協」の近くだ。中央図書館を利用して、昼食はここを歩いて生協食堂に。盛況の昼の混雑を避け早めに行く。もう常連さんだ。

6月8日から「名大祭」。通りには各種イベントの看板が並んでいる。これを見るとなんだか懐かしくなる。わが青春時代、信州大キャンパスは「たて看」で一杯だった。その多くは安保や沖縄、

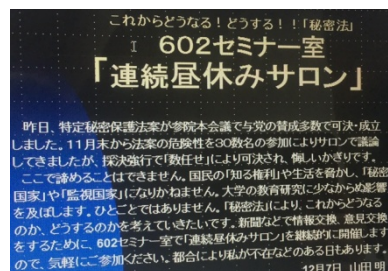


ベトナム戦争、それに大学民主化などのスローガン。私は苦手だが、「たて看」制作の名人のような友人もいた。大阪市大の大学院に入り、院生協議会の役員をした頃にも、「たて看」制作に苦労したことがある。当時も学生運動が盛んな大阪市大は、「たて看」王国のようだった。

名古屋市立女子短大に就職し、最初に感じたのは「たて看」がないことだった。大学祭の頃は、「たて看」もキャンパスを賑わしたが、名古屋市大も政治的な雰囲気のもの、ほとんど見られなかった。いまの名大と同じだ。そんなことを考えながら歩いていると、写真下の「たて看」が目に入った。「現代の治安維持法 共謀罪新設をとめよう!」と。思わずカバンからiPadを取りだし、人目も気にせず写真撮った。安保法案の



ときにも、この場所に「立て看」があり、感動気味にレポートにも紹介したことがある。安保法案の前、特定秘密保護法案のときのことが忘れられない。あれは2013年の暮。名古屋市大最後の年度、退職前のあわただしい頃だった。特定秘密保護法案に危機感を抱き、大学で何かできないかと考え「連続昼休みサロン」を602セミナー室で開いた。とにかく学生、教員に呼びかけ、新聞などをもとに情報・意見交換しようという企画。セミナー室が一杯になった時もあれば、待てども一人も来ない時もあった。写真は法案強行可決の翌日、怒りに燃えて掲示したポスターだ。



拙著『災後の新聞』から—12月6日、特定秘密保護法案が参院でも与党が採決を強行して成立した。法律の内容そのものも、また数をたのんで採決に持ち込んだ国会運営の手法も、まことに憂慮すべきものである(日経7日社説)。参院に衆院との「ねじれ」を期待したが、参院の方がより強行であった。衆院のコピーでは、参院は必要ない。賛成した議員に聞きたい。自らも罰せられる危険がある法案になぜ賛成したのか。議員の権利が行使できなくてもよいのか。

それから3年半。共謀罪法案の参院審議も大詰めだ。共謀罪は自由と民主主義を脅かし、大学にも大きな影響が及ぶことだろう。大学の取り組みが気になるところだ。

(2017年6月13日)